

# 政権交代の年末

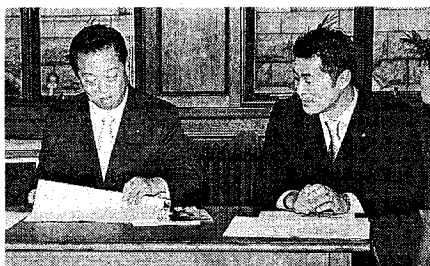
-3-

16日、来年度予算案の要望を携えて首相官邸に乗り込んだ民主党幹事長の小沢一郎(67)は、2階大ホールの上座から「政治主導になっていない」と首相の鳩山由紀夫(62)らに「訓示」した。小沢の席から1つあけた左隣に座ったのは、組織委員長の小野豪志(38)だった。

細野の前にいたのは財務相の藤井裕久(77)、官房長官の平野博文(60)だ。年配の重要閣僚と向かい合う細野の席が、小沢の「新側近」と目される位置を象徴する。事実上、来年度の予算と税制を決めた党要望は小沢が細野、参院議員会長の輿石東(73)、筆頭副幹事長の高嶋良充(68)とまとめあげた文書だ。国会幹事長の高嶋良充(68)と2階で3つの部屋に分かれる幹事長室で、小沢が常駐する奥の部屋に入れるのは、細野や高嶋ら数えるほどしかない。

「小さな団体の声も聞き漏らすな」との小沢の指示を忠実に踏まえ、議員会館や党本部など場所を転々とし、人目に立たぬよう作業を続けた。

## 剛腕に仕える



「剛腕幹事長は中堅・若手の有望株を試す(2日、陳情を精査する会議に臨む小沢幹事長と細野副幹事長、国会内)」

た前原にあこがれて政治家を志し28歳で初当選した。2005年に前原が党代表になると役員室長として補佐した。だが翌年に前原は偽メール事件で辞任に追い込まれる。代表を引き継いだ小沢は約半年、細野を同

した。小沢の答えは「おまえの言っているようなことは、政権を取ったらなんぼでもできる」。今まで接したことのない、異質で新鮮だったノリは、異質で新鮮だったにちがいない。

その後、細野は女性キャスターとの交際問題でいったん党の役職を退く。隠忍した期間に、小沢から励ましを受けたことを細野

事を決めるとき、いったん手もとで考える人」と細野は小沢の手法を評する。事実関係を確かめずに踏み込んだ偽メール事件での前原の対応と、正反対にも映る。「党務で勉強してきま

「小沢流『政治哲学』を真に向から否定する」。政治改革推進本部の事務局長、海江田万里(60)は1996年、自著「僕が小沢政治を嫌いなほんとの理由」で、

が小沢が実現に執念を燃やす国会改革の調整役に起用されるとは、夢にも思わなかった。

郵政選挙で落選した海江田は先の衆院選で、1次公認は外された。2次公認を得て小選挙区で4年ぶりの国政復帰を果たし、表舞台に復帰した役回りは、かつて敵視した小沢の下での裏方仕事だった。冷遇なのか、それとも――。

8日、海江田のパーティ

## 重責担いかすむ過去

■前原氏にあこがれも、もととは小沢と距離がある。国土交通相、前原誠司(47)のグループ(凌雲会)に所属する。京大在学中に出会った、とメールマガジンに記

じポストで身近に置いた。当時、細野はある法案の扱いで小沢に「与党と妥協して通したい」と話しかけた、とメールマガジンに記

は忘れられない。そして政権交代。幹事長になった小沢は細野を組織委員長に登用した。「奇をてらわれないオーソドックスな人」「物

画」を批判していた。それ

二大政党制実現などを訴えた小沢の著作「日本改造計画」を批判していた。それ

頭を下げた。(敬称略)